

箱根火山 2015年6月29日および30日に噴出した火山灰構成粒子

6月29日午後0:45に大涌谷から北へ1.0 kmの上湯場付近で気象庁により採取された火山灰と、6月30日午前7:00~11:00に大涌谷から北へ1.5 kmの地点に降下した火山灰（産総研採取）を高倍率の実体顕微鏡で観察した。どちらの火山灰も熱水変質作用により形成された非晶質物質および鉱物からなり、鉱物片および火山岩片を伴う。

採取された火山灰は灰～灰白色で、構成物の大部分は径63 μm以下の極細粒物（最大径250 μm）である。観察は蒸留水で超音波洗浄を行った後、粒径63 μm以上の構成物を乾燥して行った。

6月29日の火山灰の構成粒子の大部分は透明～半透明の粒子で、これらは主に非晶質シリカおよび石英からなる。また、斜長石、黄鉄鉱、輝石などの鉱物片を伴い、黄褐色～赤褐色の火山岩片も極少量含まれる。6月30日の火山灰においても、6月29日の火山灰と同様の構成粒子と量比からなる。

以上より、6月29日と30日火山灰は同様の構成粒子と量比からなり、いずれも熱水変質作用の影響を強く受けたもので構成される。これらは熱水変質地帯の浅所部分が水蒸気噴火により放出されたものと考えられる。



図1: 6月29日火山灰



図2: 6月30日火山灰